

「印省略」

平成30年6月23日

会員のみなさんへ

福岡県バウンドテニス協会
会長 稲 員 大 三 郎

公認指導員資格認定試験の開催について(ご案内)

平成30年度公認指導員資格認定試験を下記により実施します。
つきましては、受験希望者は別紙申込書に必要事項を記入の上、ブロック理事
経由で申し込んでください。

なお、事前講習会の参加も必須要件です。

記

1. 事前講習会

日 時:平成30年9月16日(日) 午前9時～午後4時

場 所:メイトム宗像(宗像市久原180番地 宗像ユリックスとなり)

電話:0940-36-0202

参加料:無料

※運動の出来る服装及びラケットを持参ください。

2. 資格認定試験

日 時:平成30年10月13日(土) 午前9時～午後4時

午前:実技試験

午後:筆記試験

場 所:メイトム宗像(宗像市久原180番地 宗像ユリックスとなり)

電話:0940-36-0202

受験料:3,000円

弁当代:600円(希望者のみ)

※運動の出来る服装及びラケットを持参ください。

※筆記用具及び必携書を持参ください。

3. 講 師 :日本バウンドテニス協会公認 上級指導員

4. 申込締切:平成30年8月20日(月)までに申込書及び受験料等をブロック理事に届けてください。

※問い合わせ先

事務局長 山下達生

電話:080-8350-9493

平成 年 月 日

公認 指導員 受験申込書

福岡県バウンドテニス協会会長 稲員大三郎 殿

フリガナ 氏 名	印	男 女	[生 年 月 日] 昭和 年 月 日 平成 年 月 日 満 歳
住 所	〒 ☎		
所属クラブ (サークル) 名			
バウンドテニス開始時期	昭和・平成	年	月頃
バウンドテニス歴		年	ヶ月

特記事項

都道府県選手権大会、ブロック選手権大会上位入賞、全国大会出場経験、
公認審判員資格取得済等、特記事項があれば記載してください。

- ※ 9月16日(日) 事前講習会時の弁当
- ※ 10月13日(土) 資格認定試験時の弁当

申し込む・申し込まない
申し込む・申し込まない

平成20年度指導員資格認定試験のための学習案内

本学習案内は、指導員認定試験の受験準備を手助けする意図で作りました。
認定試験に合格されることを期待しています。

◆何を審査するのか

選手としての技量を評価するものではありません。

1. 打球実技試験（審査確認項目）

(1) フォアハンドストローク

- ① イースタングリップまたはセミウエスタングリップで持っているか。
- ② テークバックは遅くないか。
- ③ ヘッドアップしていないか。
- ④ パームアウト、ヒールアップしているか。
- ⑤ ゆっくり・大きく・美しいフォームか。
- ⑥ コントロールは安定しているか。

(2) バックハンドストローク（シングル、ダブルいずれでも可・・・スライスのみは不可）

- ① グリップを含め基本的なスイングか。
- ② コントロールは安定しているか。
- ③ ゆっくり・大きく・美しいフォームか。

(3) ボレー・スマッシュ（シットティング、スタンディング両方）

- ① コントロールは安定しているか。
- ② スタンディングボレーは基本的、合理的なフォームか。
- ③ シットティングボレーは基本的、合理的なフォームか。

(4) サービス（フラット）とラリー

- ① サービスとラリーのコントロールは安定しているか。
- ② サービスはゆっくり・大きく・美しいフォームか。
- ③ 規則に則った、基本的、合理的なフォームか。

(5) ラケット・手出し送球

- ① コントロールは安定しているか。
- ② ボールのスピード回転は適切か。
- ③ 打ちやすいタイミングであるか。

※審査減点項目

- ア. トップスピンがかかりすぎて打ちづらい
- イ. ボールが強すぎて打ちづらい
- ウ. コントロールが不安定
- エ. タイミングが受講生のリズムに合っていない
- オ. ハンドトスが不正確

2. 指導技術（審査確認項目）

初心者を対象とした講習会を想定し、10分程度の指導を行う。

具体的な指導テーマと指導内容は、各自事前設定し、準備しておくこと。

単なる練習の進行役ではなく、受講者が興味を示し、納得できる指導内容であること。

受講者に講習内容を発表した後に、実技指導に移る。また、説明だけでなく、必ず模範演技を行うこと。

- (1) 態度、言葉使いは適切か。
 - ① 横柄な態度、言葉使いはなかったか。
 - ② 姿勢を含めた印象（指導者としての好感度）はよいか。
 - ③ 受講生とのコミュニケーションはとれていたか。
 - ④ 受講生から何か引き出していたか。
 - ⑤ ひとりよがりの説明になっていないか。
- (2) 指導内容と技術
 - ① テーマと目的の説明は明確か。
 - ② デモンストレーションはわかりやすく合理的か。
 - ③ 段階的な組み立てか。
 - ④ 球数をたくさん打てる工夫はあったか。
 - ⑤ 主な問題の発見と適切なアドバイスはあったか。
 - ⑥ 送球は打ちやすいものだったか。
- (3) 総合評価
 - ① 受講生は活動的でありかつ安全であったか。
 - ② 全体としてのまとまりがあったか。
 - ③ 単なる講習会ではなく、有効な講習だったか。
 - ④ 指導手順に無理や無駄がないか。
 - ⑤ また、受講したいと思わせたか。
- (4) 指導員の資質
 - ① 大きな声、分かりやすい指示でリードできたか。
 - ② 練習に楽しさや興味を持たせる工夫をしていたか。
 - ③ 豊富な知識、経験がありそうか。
 - ④ 受講生を引き付ける魅力があったか。

3. 筆記試験

評価観点：バウンドテニスの総合的な知識を有しているか。
必携書から幅広く出題されます。

◆最近の試験における低得点の主な項目

1. 打球実技試験

(送球技術)

- ① グリップが厚すぎてボールにトップスピがかかりすぎる。
- ② スピンの量と打球の強さがコントロールできず、コントロールが不安定。
- ③ ボール補給に手間取り、受講者の打つリズムに合わせられない。

(打球実技)

指導者であることを忘れ、選手として打球してしまう。

- ① テークバックのタイミングが遅い。
- ② スイングが早すぎる。
- ③ フォロースルーが短い。

2. 指導技術

- ① 声が小さく、何を支持しているのか不明瞭。
- ② デモンストレーションや説明がないので、何が目的かわからなく、ただのヒッティング練習になっている。
- ③ 「はいっ」と掛け声で球出しをするが、指示やアドバイスがない。
- ④ 説明が長く、結局何を言っているのかわからなくなる。
- ⑤ 時間内にまとめられない
(あと1分の声を聞いたら、練習中のことにきりをつけて、ボールを拾い、まとめの話で終了する)